

親愛なるシスター、友人の皆様

今年もまた、きわめて当たり前のようでありながら、実は驚くほど素晴らしいお恵みをお祝いする特別な時季がやってきました。神様は一人のみどりごととして私たちのもとに来てくださいました。私たちの神が、ユダヤのベツレヘムでマリアのもとにイエスとしてお生まれになったこと、イエスとして私たちと共におられるということ、それこそがクリスマスの物語そのものなのです。



クリスマスは、私たちが愛され、罪を許される物語です。暗闇の中に一筋の光が差し、闇はその光を決して消すことはできませんでした。神はご自分のおん子を私たちと同じ人としてお遣わしになりました。これはすこぶるシンプルでありながら、想像を超えるほど素晴らしい不思議でもあります。布に包まれた神様の贈り物の中に自分自身の根源を再発見するために、私たちは毎年のように心の中でベツレヘムへと旅をします。これは里帰りの旅路です。



今年はアフリカの幼きイエス会が 50 周年を記念するため、このクリスマスカードを選びました。カメルーンのシスターたちは1年をかけて来年5月にやってくるこの記念行事の準備をしています。シスターたちにとって未知の大陸であったアフリカへの 1968 年の旅は、350 年以上前の会の設立以来続けてきた数々の旅を反映しています。この旅は、勇気をもって大胆に未知未踏の地へと進んでいったもので、現在、会が世界中で多くの友人たちや協力者たちと共に手掛ける宣教活動の範となっています。

アフリカの美しい風景は歓待、喜びそして驚きに溢れています。心待ちにしていた救世主がベツレヘムでお生まれになったという良い知らせを最初に聞いたのは羊飼いたちでした。その背景からわかるように、彼らは牧場から集まってきて最初にイエスのもとにやってきた者たちです。当時の社会の周辺にいる者たちであり、社会から除け者扱いされていました。この貧しくみすぼらしい人々は、初めは恐れていたにもかかわらず、天使の導きに従い、“布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている”（ルカ 2：12）御子を探しに速やかに出かけたのです。

毎年、私たちは繰り返し、太古から続く、時間を越えたクリスマスの物語を聞いています。神がこの乱れた世界にお入りになるために作られた驚くべき入口について繰り返し語り、神の限りない愛に絶えず

驚きながら、自分たちの存在の奥深くで心を揺さぶられています。新しい何かが始まりました。今までにない、真新しいけがれなき何かが現れたのです。もう今までとは全く違う世界になる何かが。神は長い間守ってきた沈黙を破り、自らを言葉としてお与えになるというきわめて重大な決断をなさったのです。神がかつて語られた言葉の中で最も重要な言葉は、十代の娘の胎内に肉として宿り、全ての人と同じように、弱々しい新しいいのちとしてお生まれになりました。

神の限りない愛に絶えず驚きながら、自分たちの存在の奥深くで心を揺さぶられています。

神の愛の神秘はみどりごにおいて人となりました。神の愛の長さ、大きさ、深さ、高さがこの小さきもののうちに表わされました。神は夢や預言の言葉ではなく、人の肉と骨を通して私たちのところにおいでになることを選びました。天の一番高いところにおられる神は私たちの間で生きることを選ばれました。

毎年語られるクリスマスの物語は同じものですが、それを聞く私たちは毎年同じわけではありません。私たちの住む世界も毎年変わっています。喜びや悲しみ、笑いや涙が良きにつけ悪きにつけ人生に変化をもたらします。しかし、いかなる変化を経験し、喪失を嘆き悲しみ、益を祝い喜ぼうとも、クリスマスの物語は私たちに新しい誕生と私たち自身の再生を繰り返し語りかけてくれます。今年のイエスのご誕生のお祝いには、信仰の冒険がまた新たに始まるのです。神へ向かう新しい道が目の前に開け、お互いが結びつく新しい形が問いかけられます。太古の物語ではありますが、つねに新しい希望に満ちた物語でもあります。



神さまからのクリスマスのメッセージはとてはっきりしています。教皇フランシスコも言っているように、神は私たちに希望と優しさについて語りかけています。希望は、簡単に心が傷つく私たちにとって、とても大切なものです。神はいつでも私たちに扉を開き、閉じることは決してありません。それは憐れみ、慈悲、赦しの扉です。だからこそ私たちは希望のうちに

神の変わらぬ愛に包まれ、うなだれた頭を再び上げ、前に進むことができます。

“優しくすることを恐れてはいけない”と教皇フランシスコは語ります。無力な幼子の中に、私たちの近くにいて下さる神を見ます。不安定な状況の中で神が私たちのすぐそばにいて、神を信頼するだけでなく、自分の心にある柔和な心と優しさをもって神に気持ちを表すよう望んでおられると感ずることが出来ます。人々を愛の関係へと導くのは愛なる主です。人は互いに愛し合う中で、思いやりをもって相手のために自分の弱さと喜びを見せ合います。これもまた主が共におられるからです。クリスマスの物語はそれがはっきりとわかるものなのです。

クリスマスはかつて起きた出来事に驚嘆を新たにする時ですが、同時にこの世界において神に肉を与え続ける時でもあります。クリスマスの物語を語ることは、その物語を生きることです。クリスマスの話を聞いたことのない人、あるいはもう信じていない人たちのために、私たちはこの物語そのものになります。

2018年の会の顧問会のテーマ“目を覚ましていなさい。私たちに新しい道は拓かれる。”を聞くと“世界を目覚めさせる”、エンマヌエル-共におられる神、の喜びを祝うことが思い浮かびます。イエスにおいて肉となった神の愛は、私たち一人一人においても肉となり、いかなることも可能にします。マレーシアの会議の準備をしながら、私たちが目を覚ましたまま、想像もしたことのないようなことが起こるのを見届けられるよう、お互いのために祈りましょう。

クリスマスの時、神の子キリストの光のうちに、キリストを私たちの生活にお迎えし、困難の時の癒しだけでなく、毎日の生き方も教えていただけるように、新たに自分たちの心を開く努力をしましょう。パウロが若きテトスにこう語ったように：“…神の恵みが現れました。…私たちが不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活するように教え、また、祝福に満ちた希望…私たちの救い主であるイエス・キリストの栄光の表れを待ち望むように教えています。”（テト2：11-14）

マリアとヨゼフ、羊飼いたち、東方の三博士、そして私たちを含めて、毎年のようにこの希望のしるしのために準備をする歴史上のすべての人々にとって、このみどりごの誕生が何を意味するのかは、誰にもわかりません。

クリスマスにエンマヌエル—共におられる神—と出会いましょう。見失わないようにしましょう。彼を迎え入れ導いていただくのです。そうすれば主の知恵と愛の喜びに必ず満たされるでしょう。そして周りの人々に信仰の恵みと癒しについて語り、進むべき人生の道を一緒に歩くよう、導くことができるでしょう。これがクリスマスのあるべき喜びの形です。

ベツレヘムの生まれたてのみどりごの前に跪く時、すべての人と、人生に与えられるすべてのお恵みを感謝しましょう。いつでも神はその手を差し伸べ私たちが喜んで受け入れ愛で包んでくださいます。さあ、神を賛美しましょう。

公子、マリア、ノーリーンとともに、良いクリスマスとなりますよう、皆様とご家族のために心からお祈りしています。

マリー

